

中期的な活動計画の項目（イメージ）

- 第Ⅰ部（総論）で組織目標、長期的なミッションについて記載。
- 第Ⅱ部（各論）で中期（6年間）の業務（学術的助言、国際活動、各種ネットワークの構築・活用、国民及び社会との対話の促進）の目標及び実施方法、組織・運営に関する事項、活動・運営の改善、財務などの活動方針について記載。

（例）

Ⅰ．組織目標、ミッション（長期）

新たな日本学術会議は、学術が国民及び人類共有の知的資源であり文化国家の基礎であるという理念の下、我が国の科学者の内外に対する代表機関として、世界の学界と提携して学術の進歩に寄与するとともに、学術の向上発達及び学術の成果を社会に還元し、社会の課題を解決することを通じて、国民及び人類の福祉並びに我が国及び人類社会の発展に貢献することを目的とする。

Ⅱ．活動方針

- 活動方針 1 重要な社会的・地球的課題に取り組み、政府、社会に提言
 - 1－1 重点分野の設定（生成 AI、量子技術、カーボンニュートラル等）
 - 1－2 プロセスの改善（タイムリー、スピーディーな意思の表出）
 - 1－3 その他、計画策定時点では想定されない課題への対応方針。
- 活動方針 2 学術の発展のための各種学術関係機関との密接なコミュニケーションとハブとしての活動強化
- 活動方針 3 ナショナルアカデミーとしての国際的プレゼンスの向上
- 活動方針 4 多様な団体、国民とのコミュニケーションの促進
- 活動方針 5 学術を核とした地方活性化の促進
- 活動方針 6 財政基盤の多様化の促進
- 活動方針 7 事務局機能の拡充を含む企画・執行体制の強化

※各項目について、学術の進歩、社会課題解決の双方の観点から記載。

※当面（3年程度）実施することを予定している具体的な活動、運営についても記述。